

中村孫兵衛

渡辺洵一郎

安政元年（1854）埼玉郡上中条村の代々名主を務めた旧家に生まれた。

明治九年 23 歳の若さで、上中条村戸長（現村長）を務め、十二年に最初の県会議員に当選、十五年に副議長、十九年より秩父郡長・埼玉県典獄（監獄署長）、二十三年南埼玉郡長から大里郡長となり、名物郡長ともいわれた。

この間明治十三年から二十三年まで十年間栃木県黒磯町東奈須野に近隣の同士吉田市十郎・稲村貫一郎諸氏と謀り入植者による開墾・牧畜・造林を目指し「埼玉開墾社」を創設して 1,000 ヘクタールの土地を開墾した。その地区には出身地の地名を付けたので現在も埼玉・上中条・下奈良・四方寺・行田・北河原などの地名が使われている。

また「那須東原開墾碑」も残されており、これには、10 年の歳月を費やして完成した氏の功績が称えられている。

旧熊谷堤に桜を植えたが、桜は堤を崩壊させるので、伐採か他へ移植をと明治十九年県から指示された。郡長だった氏の格別のご尽力で猶予願が許可され関東一の桜の名所になった。明治三十三年熊谷を起点とする上武鉄道（現秩父鉄道）の建設にも重役として格段の尽力をした。

明治八年熊谷町石川弥一郎が主唱者となり、近隣の青年七名が時勢を知り時局を研究するための会「七名会」を作り、これにも参加活躍した。

多くの功績を称える銅像も建てられたが戦時中供出された。昭和八年九月二十三日八十歳で没した。



（熊谷市公協だより 第 21 号 平成 6 年より）